

教科・科目	家庭・家庭基礎 (必履修) (電)	単位数	2 単位	履修学年	2 年
目標	人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。学習した知識や技術を活かし、家庭生活や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。家族や社会との共生を目指すし、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
使用教材	教科書「家庭基礎 自立・共生・創造」(東京書籍) 各分野ビデオ・DVD				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し想像する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	
評価方法	期末考査、学習プリント、実習記録、視聴記録、提出作品、授業態度による総合評価				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	家庭科の学び方 ホームプロジェクト、学校家庭クラブについて  衣生活をつくる 1. 被服の役割を考える 2. 被服を入手する 3. 被服を管理する 衣服実習  食生活をつくる 1. 食生活について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画		・家庭基礎を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 ・ホームプロジェクトや学校家庭クラブの意味について理解する。 ・被服と健康との関わりを理解し、衣服材料の種類と特徴を知る。 ・被服整理について科学的な知識を身に付け、衣服を適切に選択し、管理できる。 ・実習を通し、基本的な縫製技術を身に付ける。 ・栄養、食品、調理などについて科学的に理解し、食文化への理解を深め、健康で充実した食生活を作っていく力を養う。 ・食品選択の方法を知り、食品表示を正しく読み取る力をつける。また、食中毒や食品添加物について理解する。		
2	5. 調理の基礎 6. これからの食生活 調理実習  住生活をつくる 1. 住生活について考える 2. 住生活の計画と選択  自分らしい人生をつくる 1. 生涯発達の視点 子どもと共に育つ 1. 子どもの育つ力を知る 2. 親として共に育つ 3. 子どもとの触れ合いから学ぶ 4. これからの保育環境		・食生活に必要な基本的な調理技術を科学的視点から学び、日常食を作れるようになる。  ・気候風土、家族構成、ライフステージなど異なる場合の住居様式を取り上げ、住居の機能や、人間と住居の関わりについて考える。平面図を読み取る力をつけ、自分の理想的な間取りについて考える。  ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。  ・子どもの発達と保育・福祉について理解し、それを支える親や社会の役割を認識する。		
3	共に生き、共に支える 1. 私達の生活と福祉 2. 共に生きる 3. 社会保障の考え方  経済生活を営む 1. 計画的に使う 2. 消費行動と意思決定 3. 現代の消費社会 4. これからの消費生活と環境		・一生を通した福祉や社会的支援の必要性を知る。 ・様々な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解する。  ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・消費者保護の必要性和消費者の責任について考える。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。		
学習上の留意点	実験・実習を各所に入れ、実践力の養成に留意する。				

教科・科目	家庭・家庭総合（必修）（化機織自）	単位数	2 単位	履修学年	1 年
目標	<p>人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。学習した知識や技術を活かし、家庭生活や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。</p> <p>・家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>				
使用教材	教科書「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍） 各分野ビデオ・DVD				
評価の観点・評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりとふくし、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し想像する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。	
評価方法	期末考査、学習プリント、実習記録、視聴記録、提出作品、授業態度による総合評価				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	<p>家庭科の学び方</p> <p>ホームプロジェクト、学校家庭クラブについて</p> <p>衣生活をつくる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被服の役割を考える</li> <li>2. 被服を入手する</li> <li>3. 被服を管理する</li> <li>4. 被服を作る</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭総合を学び、どのような学習活動をしていくのかわかる。</li> <li>・ホームプロジェクトや学校家庭クラブの意味について理解する。</li> <li>・被服のさまざまな役割を整理し、健康で快適な衣生活を作る力をつける。</li> <li>・衣服材料の性能と特徴・衣服整理についての科学的な知識を身に付け、衣服を適切に選択し、管理できる。</li> <li>・衣服実習を通して、基礎的なミシン縫い・手縫いなどの縫製技術を身に付ける。</li> </ul>		
2	<p>食生活をつくる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食生活について考える</li> <li>2. 食事と栄養・食品</li> <li>3. 食生活の安全と衛生</li> <li>4. 調理の基礎 調理実習</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の食生活を振り返り、食生活と健康の関わりを理解する。</li> <li>・栄養・食品・調理などについて、科学的に理解し、健康で充実した食生活を作っていく力を養う。</li> <li>・日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを知る。</li> <li>・食品衛生（食品の選択・食中毒・食品添加物）について理解する。</li> <li>・食生活に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。</li> </ul>		
3	<p>5. 生涯の健康を見通した食事計画 調理実習</p> <p>住生活をつくる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住生活について考える</li> <li>2. 住生活の計画と選択</li> <li>3. 住生活の文化</li> <li>4. これからの住生活</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。</li> <li>・住居の機能を考える。</li> <li>・平面図を読み取る力をつけ、自分の理想の間取りについて考える。また、家族構成や年齢によって家に求められる機能が変化することを理解する。</li> <li>・気候風土に合わせて工夫されてきたさまざまな住まいを知る。</li> <li>・快適な室内環境についてや家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。</li> </ul>		
学習上の留意点	実験・実習を各所に入れ、実践力の養成に留意する。				

教科・科目	家庭・家庭総合（必修）（化機織自）	単位数	2 単位	履修学年	2年	
目標	人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。学習した知識や技術を活かし、家庭生活や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					
使用教材	教科書「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍） 各分野ビデオ・DVD					
評価の観点・評価規準	<p>関心・意欲・態度</p> <p>人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し想像する能力を身に付けている。</p>	<p>技能</p> <p>人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。</p>	<p>知識・理解</p> <p>人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。</p>		
評価方法	期末考査、学習プリント、実習記録、視聴記録、授業態度による総合評価					
学期	学習内容		学習のねらい			
1	<p>自分らしい人生をつくる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達の視点</li> <li>2. 目標を持って生きる</li> <li>3. 人生をつくる</li> <li>4. これからの家庭生活と社会</li> </ol> <p>高齢社会を生きる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を理解する</li> <li>2. 高齢者の心身の特徴</li> <li>3. これからの高齢社会</li> </ol> <p>食生活をつくる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 食生活と文化</li> <li>7. これからの食生活</li> <li>8. 調理実習（応用）</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の観点から今の自分を客観的にみつめ、職業選択も見通す。</li> <li>・家族という決まった形があるわけではなく、さまざまな形があり、時代によっても変化していくことを知る。</li> <li>・家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。</li> <li>・高齢社会の現状と課題を理解する。</li> <li>・高齢期の心身の変化と特徴と、個人差が大きいことを理解する。</li> <li>・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。</li> <li>・日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようにする。</li> <li>・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題点を考える。</li> <li>・行事食や郷土料理などの応用調理を知る。</li> </ul>			
2	<p>子どもと共に育つ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 命を育む</li> <li>2. 子どもの育つ力を知る</li> <li>3. 親として共に育つ</li> <li>4. これからの保育環境</li> </ol> <p>経済生活を営む</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画的に使う</li> <li>2. 国民経済・国際経済と家庭の経済生活</li> </ol> <p>衣服実習</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達の様子および発達段階を知る。</li> <li>・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。</li> <li>・子供を取り巻く社会の変化の現状について理解し、考える。</li> <li>・生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。</li> <li>・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。</li> <li>・地域の伝統産業について知り、生活へ取り入れる工夫の仕方を学ぶ。</li> </ul>			
3	<p>経済生活を営む</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 消費行動と意思決定</li> <li>4. 現代の消費社会</li> <li>5. 消費者の権利と責任</li> <li>6. これからの消費生活と環境</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。</li> <li>・消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。</li> <li>・大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。</li> <li>・キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。</li> </ul>			
学習上の留意点	実験・実習を各所に入れ、実践力の養成に留意する。					